

薬剤耐性(AMR)について

薬剤耐性(AMR)とは、抗菌薬（抗生物質）の使用により病原体が変化して、抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることです。

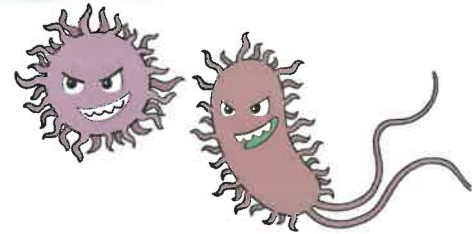
抗菌薬を正しく飲まない、病原体が残って変化し、薬剤耐性菌が発生する可能性があります。

また、抗菌薬は多くの風邪やインフルエンザの原因であるウイルスには効きません。必要のない抗菌薬の服用は薬剤耐性菌の発生につながるので注意しましょう。

現在、薬剤耐性によって世界では年間70万人が死亡しています。このまま何も対策を取らなければ約30年後には1000万人が死亡すると予想され、がんの死亡者数を上回る可能性があります。

抗菌薬は、人の他に動物の医療や畜水産、農業など、さまざまな分野で使われています。そのため人以外で発生した薬剤耐性菌の遺伝子が、食品や環境などを介して人へ伝播する可能性があります。人だけでなく、動物、環境も同じように健康であるために、これらの衛生管理に関わる人々がそれぞれの分野を超え、連携して薬剤耐性対策に取り組んでいます。

効かない薬が増えている!!



薬剤耐性を知っていますか?

AMR: Antimicrobial Resistance

「薬剤耐性」(AMR)とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬(抗生物質)が効かなくなることです。抗菌薬を正しく飲まないで、からだの中で耐性をもった病原菌が増えて感染症の治療や手術の際に影響を及ぼすことがあります。

抗菌薬は正しく服用しましょう

かぜやインフルエンザに抗菌薬は効きません

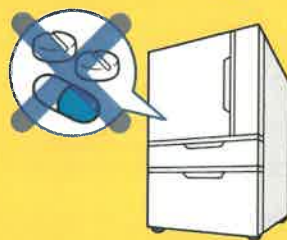


抗菌薬をもらうには処方箋が必要です

医師の指示通り飲み切りましょう



抗菌薬をあげたり、もらったりしてはいけません



抗菌薬をとっておいたり別の機会に飲んではいけません

わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう



知ろう まもろう 抗菌薬

細菌とウイルスって どう違うの？

①

細菌もウイルスもとても小さな生物です。大きな違いは、大きさと増え方です。細菌はウイルスの約100~1000倍あり、自分でエネルギーを作ります。ウイルスは自分でエネルギーを作り出せないで、ほかの生物を利用して増えていきます。抗菌薬(抗生物質)は、細菌をやっつける薬です。ほとんどの「かぜ」の原因であるウイルスには効果がありません。



薬剤耐性菌って なんだろう？

②

わたしたちの体には、たくさんの細菌がバランスを取りながら共生しています。この中にも抗菌薬の効かない細菌(=薬剤耐性菌)がわずかにいることがあります。抗菌薬を飲むと、病原菌だけでなく、もともと住んでいる菌も退治されて、薬剤耐性菌だけ残り、増えてしまうことがあるのです。



もし、クスリが 効かなくなったら!?

③

抗菌薬の効かない菌(薬剤耐性菌)が増えると、これまで抗菌薬を飲めば治っていた感染症が治りにくくなったり、他の病気の治療に影響したりします。現在、世界で薬剤耐性により年間約70万人が死亡しています。何も対策を取らなければ、2050年には約1,000万人が死亡すると言われており、世界的な問題となっています。



人も動物も環境も 健康であるように

④

抗菌薬は動物の医療や、畜水産・農業などいろいろな分野でも使われています。薬剤耐性菌が食品や環境などを介して人に広がったり、逆に人から人以外の動物へ広がる可能性があります。人だけでなく、動物や環境もみんなが健康でいられるよう、分野を越え、連携して薬剤耐性対策に取り組んでいます。

